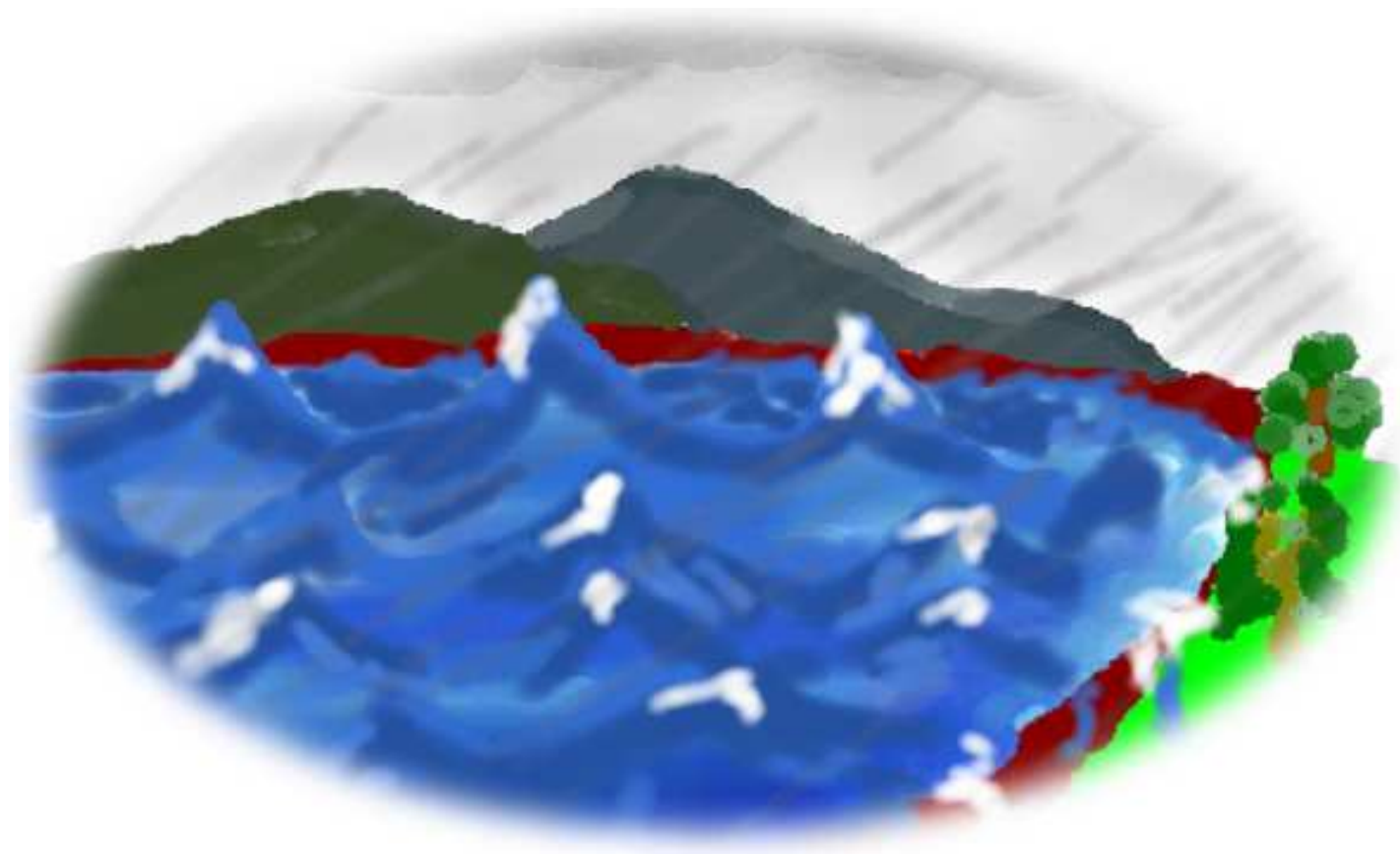
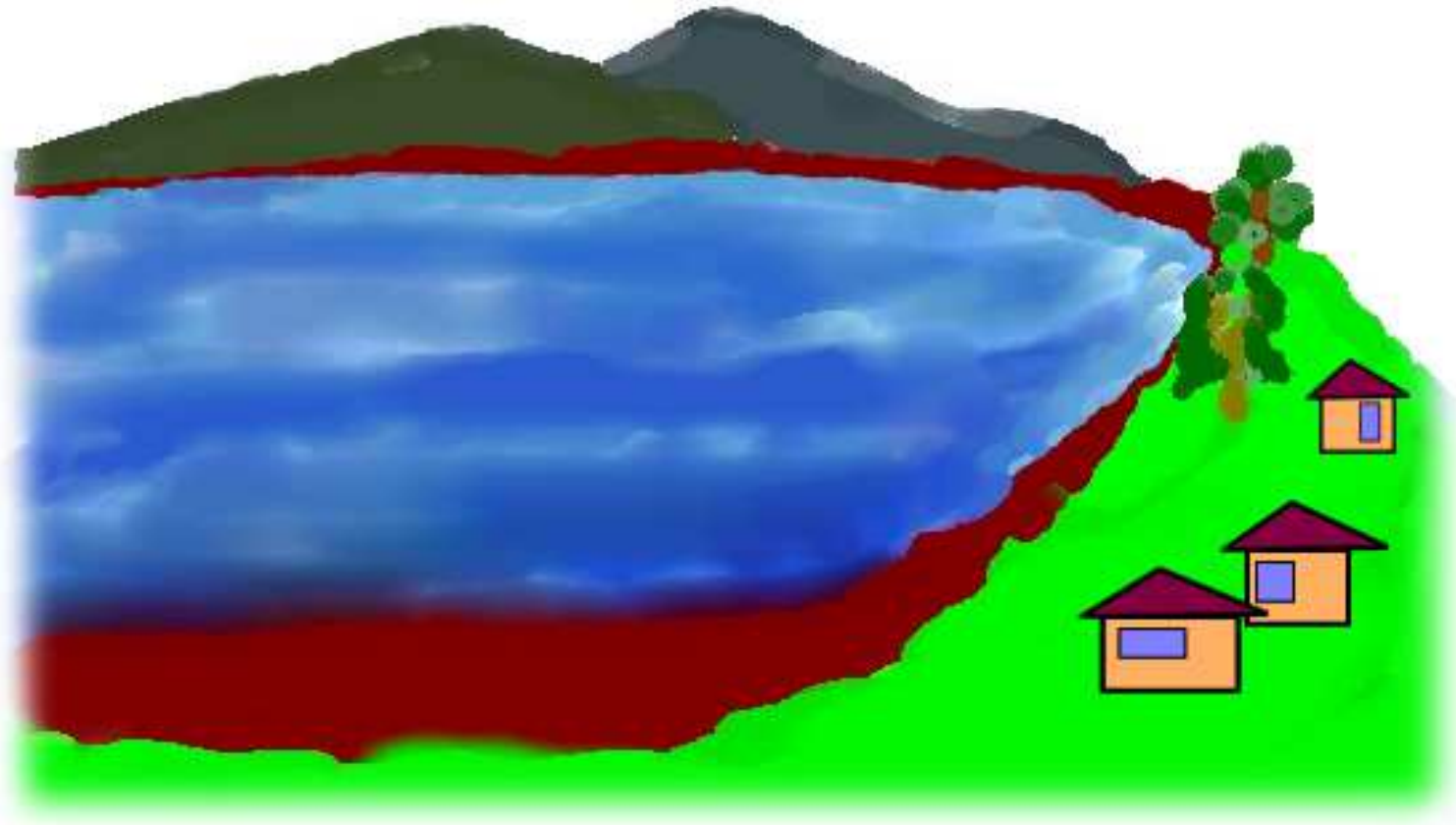


嵐と湖

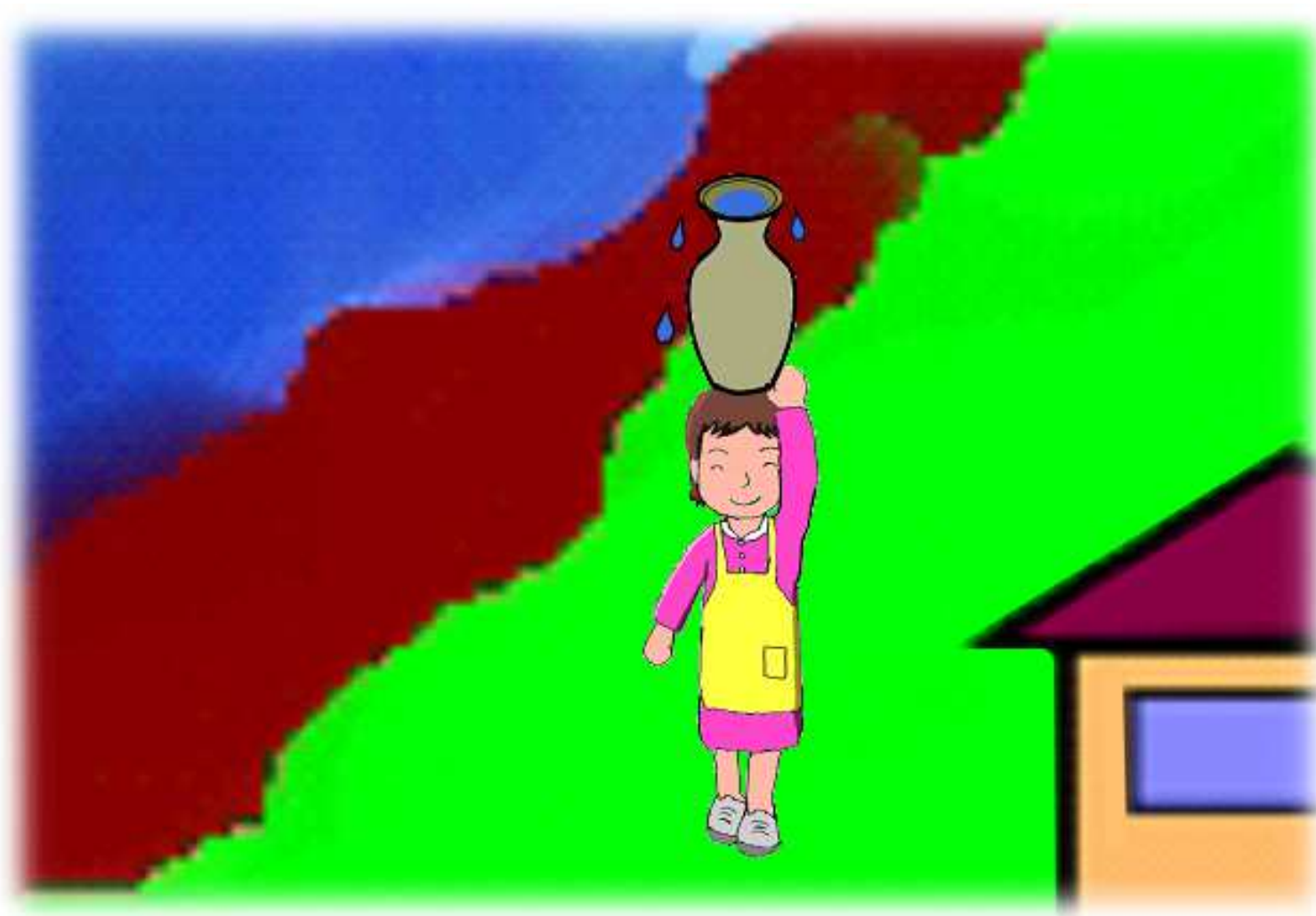


東郷 潤

遠い宇宙のある星に、大きな湖と小さな村がありました。



湖は村人たちの生活を支えています。湖なしで生きていくことは出来ません。



ところが最近、湖の水が時々毒になるのです。




湖の毒で、子どもやお年寄りがもう何人も死んでしまいました。

湖には何が有るのでしょうか？



もぐって毒の原因を探す人もいます。

でも、水はにごっているし、冷たいし、湖は広いし、何も見つけることは出来ません。
かといって湖を離れて生きていくことも出来ません。



毒の原因は分からないし、
湖と離れては生きていけないし…

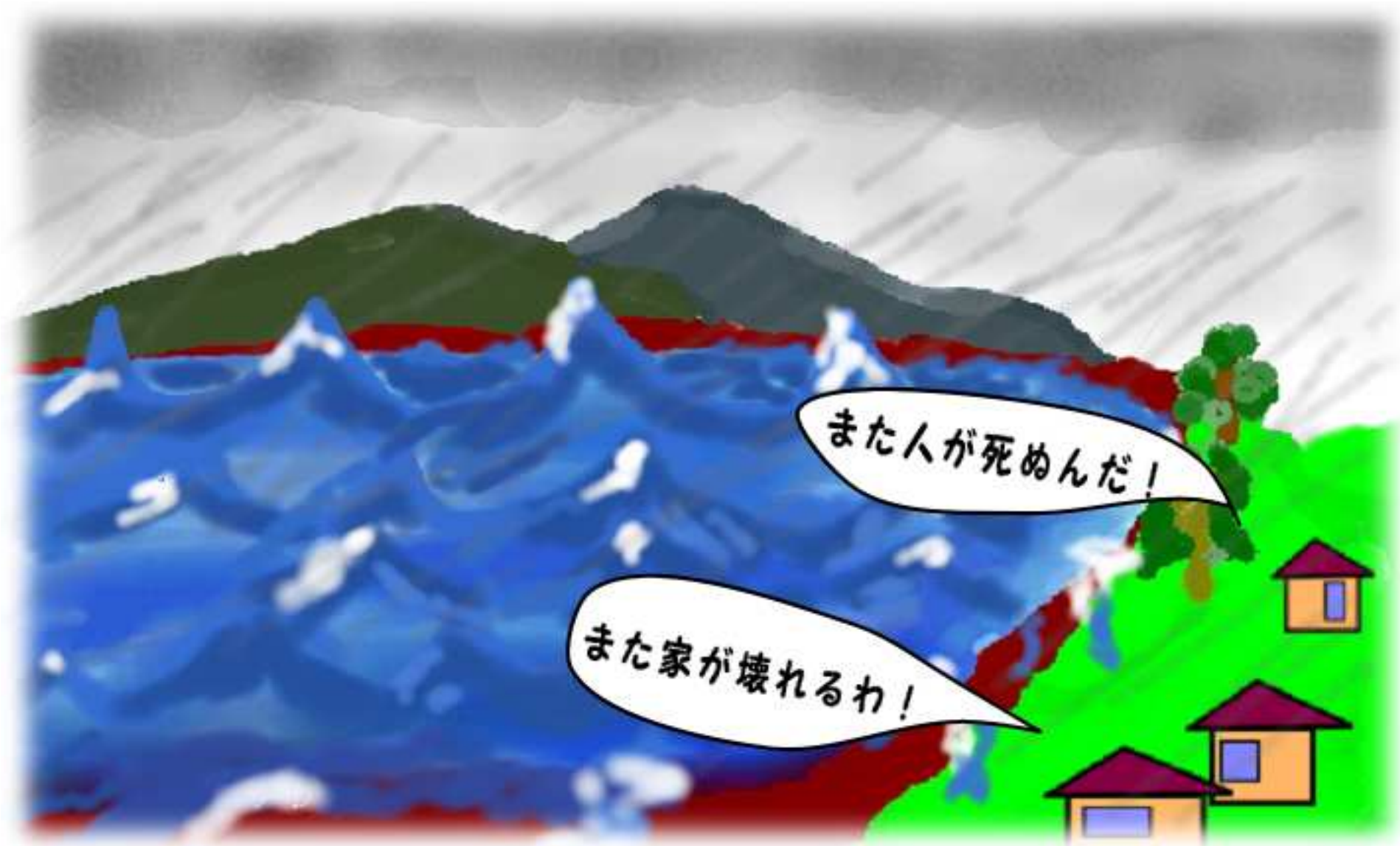
ああ、もう
どうしようもないよ！

しかもこの頃、村は、しょっちゅう嵐に襲われるのです。

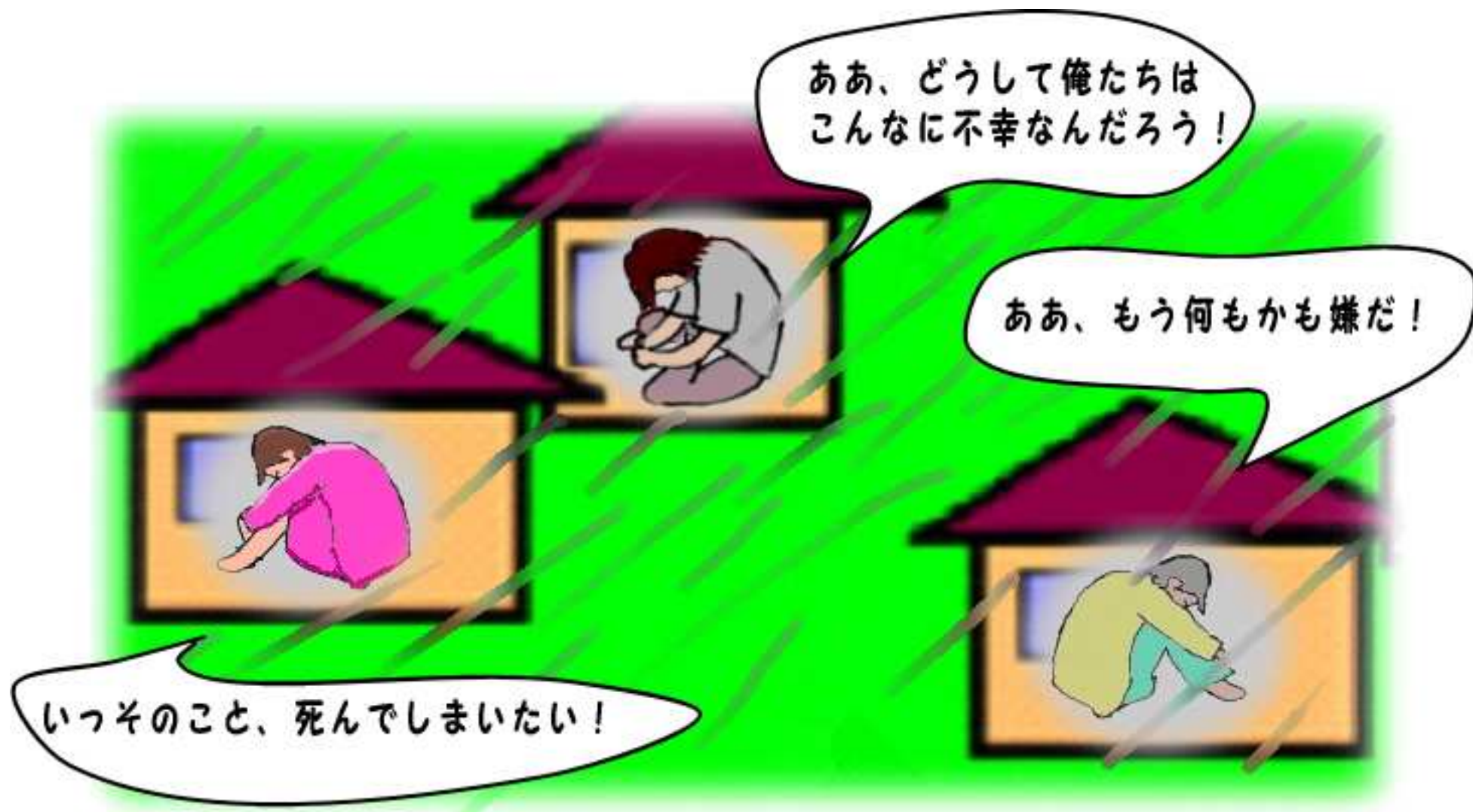
これでもか、これでもか、と不幸が続きます。まるで村は、呪われているかのようです。



ああ、また嵐が来ました。湖は大荒れです。



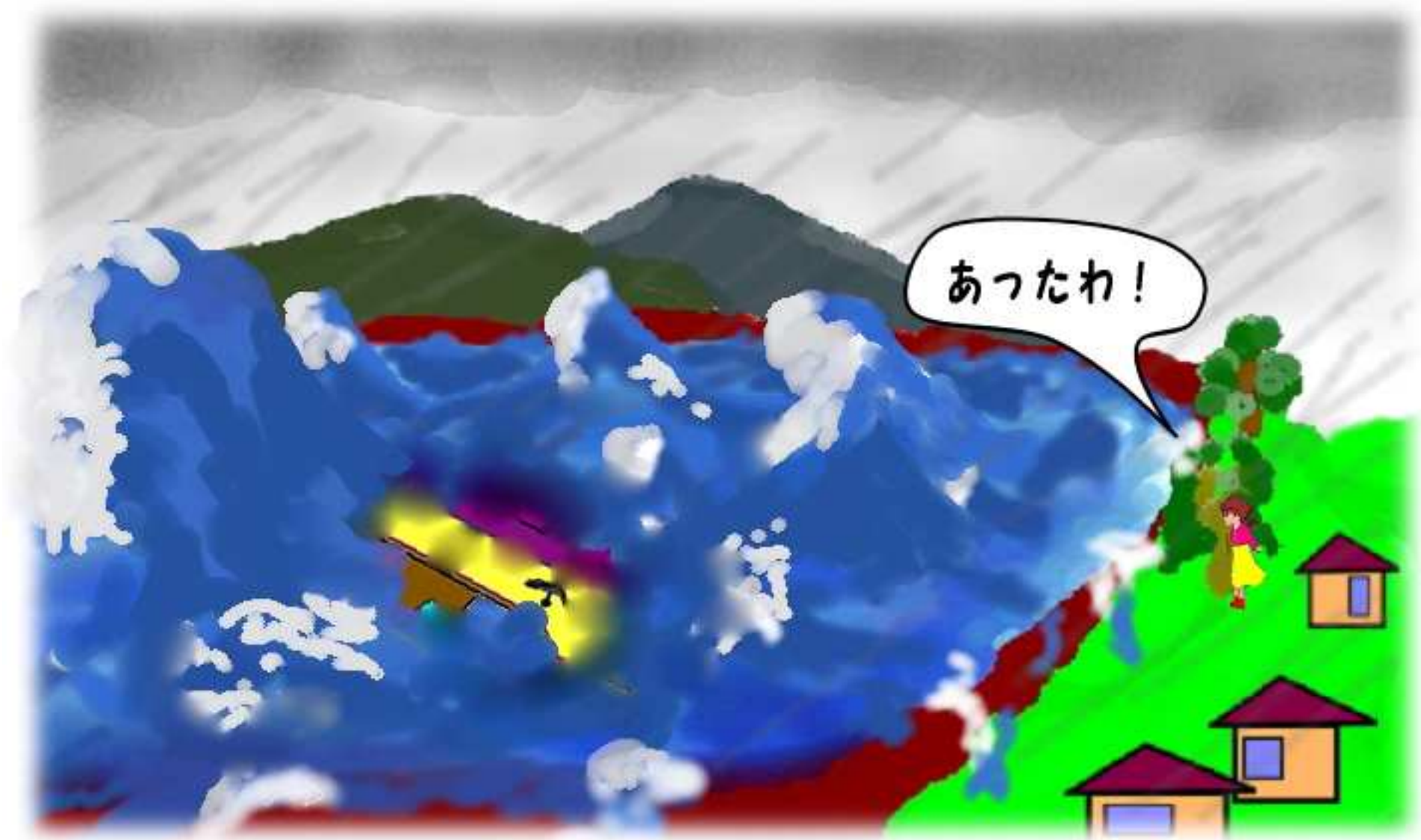
みんな怖くて目をつぶって震えています。みんな、みんな泣いています。



そんな中、一人の少女が、湖を眺めていました。



強い風で、波がすごく大きくなりました。——あ、一瞬、湖の底が見えました。



嵐が去りました。



ねえ、みんな、聞いて！
あそこに船が沈没しているの！
きっと毒の原因よ！

みんなで、少女が見た湖底にある船を引き上げました。



船の中から毒の缶がたくさん出てきました。小さな缶はいくつか穴が開いて空っぽです。
これが、湖の水が時々毒に変わる原因だったのです。



一番大きな缶には、まだ毒の中身が一杯つまっています。でもこの缶も腐って、もう少しで穴が開きそうです。



もし、嵐が来なければ…、
もし、嵐が小さくて湖の底が現れなかったら…、
もし、湖の底が現れたとき全員が目をつぶっていたら…、
毒を見つけるチャンスを失っていた。

そしたら村は全滅だった！



ねえ、君。

嵐のときこそ、目を開けて。

あとがき

絵本「嵐と湖」は、様々な現実の嵐—イジメでも、犯罪、テロ、戦争といった問題でも—の中で、悩み、苦しみ、もがき、絶望する方へ向けて、癒しへの祈りの気持ちを込め執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2005